

# 南北対話、基地見直し好機

## 日米3氏 半島情勢巡り議論

沖繩から安全保障政策を考えるシンポジウム「激動の東アジア情勢を沖繩から語る」(共催・寺島文庫、勁草塾、後援・県、琉球新報社、沖繩タイムス社、連合沖繩)が21日、那覇市のパレット市民劇場で開かれた。対話による緊張緩和へと向かう朝鮮半島情勢を巡り、日朝首脳会談の行方が在沖米軍基地に与える影響など、日米の専門家3氏が安全保障環境の先行きについて議論を深めた。

### 「東アジア」シンポ

柳沢協 三元内閣官房副長  
官補は「年内に朝鮮戦争を終わらせるプロセスの中で

在韓米軍が見直し議論の対象になり、その延長で在日米軍も含まれてくる可能性はある。北東アジアの国家間の力による対立を緩めていくという文脈で基地の問題を考えていくことで、いかようにも見直せるチャンスがある」と強調した。

超党派国会議員でつくる沖縄等米軍基地問題懇談会をかねて日米両政府が出し



東アジアの安全保障政策を巡り議論する(右から)藤田幸久、柳沢協、ジョエル・エレンライクの各氏、前泊博盛、沖国大教授(21日、那覇市のパレット市民劇場)

### 発言要旨

**ジョエル・エレンライク氏 米総領事**  
先の日米首脳会談で、北朝鮮に関してトランプ大統領と安倍首相は完全に一致していることを確認した。在沖米軍についても2国間で合意した統合計画の実行を再確認した。運用機能と抑止力を維持しつつ、地元の負担軽減について共に取り組む。計画が沖繩の議論を招くことは承知しているが、私が就任して3年の間に北部訓練場の大規模な返還など目に見える負担軽減で進展があった。(北朝鮮の緊張緩和が在沖基地に与える影響は今ほとんどのコメントをしても不安定な要素に基づいたものになるが、日米同盟で最優先にされるのは2国間の安全保障を確実なものにすることだ。在日米軍は地域の安定と抑止力を考慮したバランスの上に成り立っている。

た答えた。日米の共同ビジョンを実現するために必要だ」と述べた。

前泊博盛 沖繩国際大教授  
連続講座の第1回。

## 「辺野古は現計画実行」 「必要性ない県内移設」 「朝鮮は日本の責任大」

エレンライク氏  
柳沢氏  
藤田氏

前泊博盛氏 北朝鮮情勢に日本はどう向き合おうか。  
藤田幸久氏 南北朝鮮の分断は日本の責任が大きい

がコーディネーターを務めた。シンポジウムは沖繩から問い掛ける「平和・経済」連続講座の第1回。

い。6カ国協議では米国以外の国との関係改善を原点到に据えなければならぬ。朝鮮戦争の復興特需で日本が経済成長を迎えたことを思い起こすいい機会。

前泊氏 普天間飛行場の問題をどんな形で解決するか。

柳沢協二氏 仮に海兵隊が必要だと考えても、日本が高速輸送艦を提供すれば必要な時に必要な場所に展開できる。県内移設の軍事的ニーズはないにもかかわらず、辺野古移設が必要だと言いつける政府。厄介だ。

前泊氏 辺野古移設をどう考えるか。

エレンライク氏 まず在沖米軍を20%縮小する。辺野古移設は日米両政府が長

柳沢氏 知事だけに頼ってどうするのか。運動主体がどういう覚悟を持っているのか。特定の政局以上を見据えた展望が必要だ。

い時間をかけた価値ある話し合いの結果だ。日米の共同のビジョンを実現するために必要だ。

前泊氏 解決策提示を。エレンライク氏 日米で合意したように統合計画を進めていく。普天間飛行場代替施設が鍵となる。

前泊氏 基地を返しても代替施設を造ったら(基地縮小は)ゼロになる。

エレンライク氏 今持っている計画を実行する。

前泊氏 日本と沖繩の政局について見通しを聞きたい。県知事選についても。

藤田氏 政権を守るために官僚が民主主義やルールをねじ曲げる。日本全体で解決すべきことを沖繩が担っているのが現状だ。

名護市辺野古への現行案は、普天間基地の危険の除去や早期閉鎖といった当初の目的を満たさない現状になっている。環境やコスト、工期の長さが検証されていない。元国防次官補のジョセフ・ナイも辺野古移設は長期的解決策ではないと語っている。駐留を前提にした基地には脆弱せいじけん性があるので米軍の巡回方式を検討すべきだという見解が米国内にある。そうした検証を日米の議員や専門家を取り組み、政治的な議題とすべきだ。

辺野古と移設施設の可能性は米国内で文書が確認されながら日本側で開示されていない。透明性を高めて詰めていく必要がある。現在までの変化や課題をオープンに議論しながら、現代版のSA CO2を策定する必要がある。

柳沢協二氏 元官房副長官補

藤田幸久氏 参院議員

核を持ちたいという北朝鮮の強い意思を憂えるにはどうするべきか。軍事力で圧力を掛けるのは逆効果で、相手はさらに核保有の意思を強める。武力でつぶさないという安心感を米国が北朝鮮に与えることが重要だ。体制保証によって北朝鮮が核を放棄するというのは、解決のための重要な構図だ。北朝鮮は信用できないから圧力を続けるという考え方は戦争に行き着くしかない。北朝鮮がミサイルを日本に向けて理由は、恐ろしい米軍が駐留していることだけだ。日本国内では米軍の抑止力が必要だという点で思考が停止している。安全保障を米国内に頼らない日本独自のビジョンを持つことが必要だ。そのことが北朝鮮を巡る最近の動きで改めて見えてきた。